

科目	スポーツ実技Ⅲ剣道	担当	中川 治彦	履修学年	2年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	1単位

**【授業目標・到達目標】**

我が国の伝統的な運動文化である剣道の教育的意義について理解するとともに、礼節を学び自ら実践できるようにする。木刀による剣道基本技稽古法を取り入れた学習を通して、各種の技の理解と習得を図る。さらに初心者に対する効果的な指導法を学習するとともに、中学校における武道必修化に対応した指導法についても考える。

**【履修注意】**

用具(竹刀、剣道具等)の点検を必ず行い、事故防止に努めるとともに、清潔にも配慮して授業に取り組む。

武道の特性を理解し、礼節を重んじ互いに協力して工夫・研究しながら積極的に学習に取り組む。  
教職課程(保健体育)履修者は必修科目であるから必ず履修すること。

**【評価方法】**

毎時間の授業レポート 40% 実技試験 60% 全出席とし、5回以上の欠席は単位を認めない。

**【試験について】**

実技試験をその都度実施する。

再試験対象者の条件： 再試験は行なわない

**【予習・復習】**

学修時間は1単位45分が文部科学省指針である。本科目は1単位科目なので90分の講義に対して45分以上の自宅学習が必要である。なお、予習は必要ない。復習は必ず行い、学習した内容をノートに整理し授業理解に努めること。

**【教科書】**

特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。

**【参考書】**

書籍名: 剣道授業の展開 著者: 全日本剣道連盟 出版社: 全日本剣道連盟

**【その他の注意事項】**

**【授業計画・内容】**

回数	項目	内容
1	オリエンテーション	受講上の心構え 授業の進め方 剣道の意義 用具(防具・竹刀)
2	剣道の歴史	剣道の歴史 伝統性 左座右起 九歩の間 提刀 帯刀 礼式
3	木刀による剣道基本技稽古法Ⅰ	基本稽古1・2・3 手の内 残心 間合 基本打突
4	木刀による剣道基本技稽古法Ⅱ	基本稽古4・5・6 刃筋 抜き技 すり上げ技 竹刀での素振り
5	木刀による剣道基本技稽古法Ⅲ	基本稽古7・8・9 出ばなの技 返し技 竹刀を用いての踏み込み
6	木刀による剣道基本技稽古法Ⅳ	基本稽古1-9までの総復習 竹刀を用いての切返し
7	木刀による剣道基本技稽古法試験	基本稽古1-9まで試験 竹刀による基本技稽古法の応用
8	竹刀による基本技稽古法の応用Ⅰ	理合(講義) 一本打ちの技 連続技 払い技 引き技
9	竹刀による基本技稽古法の応用Ⅱ	抜き技 すり上げ技 打ち落とし技 試し合い(稽古)
10	試合の方法と審判法	試合者の所作 審判法の理解 有効打突の理解 簡易な試合
11	小試験 簡易試合	小試験(切返し、払い技 返し技 抜き技) 稽古 簡易試合
12	剣道実技試験	着装、素振り、切り返し、稽古の試験を行なう
13	日本剣道形Ⅰ	打太刀・仕太刀の役割の理解 剣道形一本目、二本目
14	日本剣道形Ⅱ 試合	剣道形五本目 総復習 試合練習
15	日本剣道形試験 試合	試験(剣道形一・二・五) 試合(団体戦)
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ